

主要産地における平成30年産水稲の生育状況等について 第8報 (8月3日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成30年8月3日)

道府県	生育状況等		技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体、気象台等公表資料の抜粋)																																			
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等																																				
北海道	(生育)	<p>(全道) 生育は、茎数が少なくやや遅れている。(北海道農政部 7月19日付)</p> <p>(空知) 7月上旬の低温、日照不足により生育はやや遅れている。(空知総合振興局 7月19日付)</p> <p>(石狩) 低温、日照不足の影響により、生育は停滞している。(石狩総合振興局 7月19日付)</p> <p>(後志) 遅速日数に遅3 (後志総合振興局 7月19日付)</p> <p>(胆振) 生育は遅い。(胆振総合振興局 7月19日付)</p> <p>(日高) 低温・日照不足により生育はやや遅れ、分けつは遅慢で茎数は少ない。(日高総合振興局 7月19日付)</p> <p>(渡島) 日照不足の影響で生育はやや遅れており、茎数は少ない。(渡島総合振興局 7月19日付)</p> <p>(檜山) 生育は概ね平年並に推移している。(檜山振興局 7月19日付)</p> <p>(上川) 生育は、平年よりもやや遅い。(上川総合振興局 7月19日付)</p> <p>(留萌) 低温及び寡照の影響により生育は遅れている。(留萌振興局 7月19日付)</p> <p>(オホーツク) 生育進捗は平年並みだが、低温・寡照の影響で分けつが抑制されている。(オホーツク総合振興局 7月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月4日～9月3日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温はほぼ平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量はほぼ平年並の見込みだが、9月は前線や湿った気流の影響を受けやすく降水量は平年並か多い見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p>																																			
青森	(生育)	<p>・7月31日現在の水稲出穂状況は、県全体で1%となっている。(青森県 8月1日付)</p> <table border="1"> <caption>7月31日現在水稲出穂状況</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">地域</th> <th colspan="3">出穂割合 (%)</th> </tr> <tr> <th>本年</th> <th>平年</th> <th>前年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東青</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>中青</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>西青</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>上北</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>下北</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>三八</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>県全体</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>注) 各地域農林水産部調べ。小管未満は下は除く五入。平年値は、過去10か年の平均。</small></p>	地域	出穂割合 (%)			本年	平年	前年	東青	0	0	1	中青	1	3	1	西青	1	3	0	上北	0	1	0	下北	4	3	6	三八	3	2	2	県全体	1	2	1	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月4日～9月3日】 東北地方の向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の気温は、平年並か高い見込み。降水量はほぼ平年並の見込みだが、9月は前線や湿った気流の影響を受けやすく、降水量は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>
地域	出穂割合 (%)																																					
	本年	平年	前年																																			
東青	0	0	1																																			
中青	1	3	1																																			
西青	1	3	0																																			
上北	0	1	0																																			
下北	4	3	6																																			
三八	3	2	2																																			
県全体	1	2	1																																			
岩手	(生育)	<p>(7月25日現在)</p> <p>・農業研究センター (北上) 草丈は、「ひとめぼれ」は平年並みで、「あきたこまち」、「銀河のしずく」は、平年を上回っている。茎数は、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」は平年を下回っており、「銀河のしずく」は平年を上回っている。葉齢は、全品種とも平年並みで、葉色 (SPAD値) は、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」は概ね平年並みで、「銀河のしずく」は平年を上回っている。また、「あきたこまち」、「銀河のしずく」は7月23日に、「ひとめぼれ」は7月25日に減数分裂期に達した。</p> <p>・県北農業研究所 (軽米) いわてっこは、草丈、茎数、葉色 (SPAD値) は、平年を上回っており、葉齢は、平年並みとなっている。また、7月25日に減数分裂期に達した。(岩手県農業研究センター 7月30日付)</p>	同上																																			
宮城	(生育)	<p>・7月30日現在、18.482ha (水稲作付見込面積の28.7%) で出穂が確認され、本年の出穂始期は7月28日となり、平年より4日程度早まっている。(宮城県 7月31日付)</p>	同上																																			
秋田	(生育)	<p>(北秋田) 管内の水稲の出穂期は8月2日と平年より3日早。葉に増減があり、出穂にバラツキが見られる。</p> <p>(雄 勝) 一部品種で出穂が始まっている。</p> <p>(秋 田) 管内で出穂が始まっている。</p> <p>(由 利) 7月25日の水稲定点調査結果 (3品種・移植8か所平均) によると、草丈は77.2cmと平年より長く (平年比106%)、m^2あたり茎数は441本で少なく (平年比84%) になっている。今後の気温が平年並みで推移すれば定点調査の出穂期は平年より1日早い8月4日頃になると見込まれる。</p> <p>(平 鹿) 7月25日現在の水稲定点調査 (あきたこまち11か所) では、草丈79.4cm (平年比104%)、茎数482本/m^2 (同比99%)、葉数12.2葉 (同差+0.1葉) となっている。(秋田県 8月3日付、7月27日付)</p>	同上																																			
山形	(生育)	<p>(西・南東置賜) 高温の影響により、出穂は平年よりも3日～4日程度早。例年よりも圃場間や圃場内の出穂のばらつきが大。(やまがた攻めの米づくり日本一運動置賜地域本部実践班 8月2日付)</p> <p>(北村山) 高温・多雨・少雨の影響により、減葉し (平年より、最終葉数 (止葉) が1枚少ない)、平年より2～3日早く出穂しそうなイネが見られる。はえぬき、雪若丸、ひとめぼれ、つや姫、コシヒカリ等、出穂期が品種特性どおりでなく、圃場や栽培者間で逆転している場合もある。(北村山支庁北村山農業技術普及課 8月1日付)</p> <p>(最 上) 管内の出穂は平年と比べて3～4日程度早まる見込み。(やまがた攻めの米づくり日本一運動最上地域本部 7月31日付)</p>	同上																																			
福島	(生育)	<p>・7月3日現在の農業総合センターの生育調査によると、本部 (郡山) と会津地域研究所 (会津坂下) では、平年より草丈は短く、茎数及び主稈葉数は少なく、葉色は濃くなっている。浜地域研究所では、草丈は平年並、茎数は平年より多く、主稈葉数は平年並からやや多く、葉色は淡くなっている。</p> <p>・コシヒカリの主稈出葉からみた生育は、本部と会津地域研究所では平年より最大5日の遅れ、浜地域研究所では平年並となっています。一方、浜地域研究所の幼穂形成始期は、ひとめぼれ、天のつぶでは平年より1～3日早くなった。今後の天候によりますが、本部、会津地域研究所の各品種と浜地域研究所のコシヒカリの幼穂形成始期については平年並と見込まれる。また、7月上旬に本田にて葉いもちが確認されている (病害虫防除所調べ)。(福島県農林水産部 7月10日付)</p>	同上																																			

生育状況等																																																		
茨城	<p>(水戸市 5月1日移植 7月23日現在) 主得葉数の展開からみた生育は「あきたこまち」2日早い。「コシヒカリ」3日早い。「ふくまる」3日早い。 (水戸市 5月10日移植 7月23日現在) 主得葉数の展開からみた生育は「コシヒカリ」平年並。 (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月23日付)</p> <p>(龍ヶ崎市 4月26日移植 7月18日現在) 主得葉数の展開からみた生育は、「あきたこまち」3日早い。「コシヒカリ」3日早い。「ふくまる」3日早い。 (龍ヶ崎市 5月7日移植 7月18日現在) 主得葉数の展開からみた生育は、「あきたこまち」平年並。「コシヒカリ」3日遅い。 (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月24日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月4日～9月3日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 関東甲信地方では、8月7日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁東京管区気象台)</p>																																																
栃木	<p>(早稲栽培7月20日調査結果 コシヒカリ) 全体の生育 (16か所平均) 草丈は長く (平年比111%)、茎数は平年並 (99%)。葉色はやや濃い (-0.3) ため、生育診断値 (葉色×茎数) は小さい。 節は0.2葉多く、幼穂長は16.8cmで平年より8.4cm長い。幼穂長から予測すると、出穂期は、7月26日で平年より6日早い。</p> <p>(普通稲栽培7月20日調査結果 あさひの夢) 全体の生育 草丈は58.2cmで平年並 (99%)、茎数は469本/m²で平年よりやや少ない (98%)。葉齢は10.6で平年並、 葉色は4.2で平年より0.6濃い。生育診断値 (葉色×茎数) は1,998で平年より小さい (86%)。病害虫は、葉いもちが1か所 確認されているが、発生程度は低い。 (栃木県農産部経営技術課 7月27日付)</p>	同上																																																
千葉	<p>・7月以降、気温は高く推移しており、全体的に生育の進みはやや早くなっている。4月20日植えの「ふさおとめ」、 「ふさこがね」、「コシヒカリ」の出穂期は3～4日程度早くなっている。 成熟期は早いところで「ふさおとめ」は8月10日頃から、「ふさこがね」は8月14日頃から、 「コシヒカリ」は8月23日頃頃から予測される。なお、「コシヒカリ」については、6月中旬の低温によって、 出穂にバラつきが見られる。(千葉県 7月27日付)</p>	同上																																																
新潟	<p>【7月30日現在の生育】 コシヒカリは指標値 (生育のめやす) に比べて、草丈は「やや長い」、茎数・葉数の進みは「並」、 葉色は「やや濃い」状況です。葉色は、現在も前回調査と同様に指標値を下回っている。 フェーンの影響を受けたほ場、用水が不足している地域の一部において、下葉が枯れ上がり、 葉が巻いている状況が見られる。(新潟県 7月31日付)</p> <p>(岩船) (コシヒカリ) 草丈・やや長 茎数・並 葉色・やや淡～淡 出穂期予想：並 (村上農業普及指導センター 7月30日現在) (魚沼) 指標値に比べ、草丈やや長い、茎数やや少ない、葉数やや早い、葉色濃い。 (魚沼農業改良普及センター 7月30日付) (佐渡) (コシヒカリ) 指標値より草丈は高く、茎数は少ない。葉色は低い。生育の地域差が大きい。 (佐渡農業普及指導センター 7月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月4日～9月3日】 北陸地方の向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 北陸地方では、8月7日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁新潟地方気象台)</p>																																																
富山	<p>(コシヒカリ) 平年に比べて草丈はやや長く、茎数、葉齢、葉色は並みとなっている。幼穂形成期は平年より1日早い7月11日となった。 出穂期は、今後、平年並みの気温で推移した場合、平年より1日早い8月2日頃と見込まれる。</p> <p>(てんこもり) 平年に比べて草丈はやや長く、茎数、葉色は並み、葉齢は0.4葉多くなっている。 幼穂形成期は、平年より3日早い7月11日となった。 出穂期は、今後、平年並みの気温で推移した場合、平年より3日早い8月3日頃と見込まれる。 (富山県 7月17日付)</p>	同上																																																
石川	<p>(出穂期) コシヒカリは、加賀地域では7月23日頃から出穂が見られており、7月24日～30日頃と予想され、 平年に比べ3～4日程度早い。・能登地域では、現在 (7/27) 出穂が始まっている圃場も見られ、 7月27～8月1日頃と予想され、平年4～8日程度早い。 ひやくまん穀は、既に走り穂の見られる圃場もあり、前年より1～2日早く、コシヒカリの出穂期より 8～10日程度遅くると予想される。(石川県農林総合研究センター 7月31日付)</p>	同上																																																
福井	<p>(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月5日付)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">生育診断値</th> <th colspan="2">生育診断値</th> <th colspan="2">生育診断値</th> <th colspan="2">生育診断値</th> <th colspan="2">生育診断値</th> <th colspan="2">生育診断値</th> <th colspan="2">生育診断値</th> <th colspan="2">生育診断値</th> </tr> <tr> <th>生育</th> <th>葉色</th> <th>茎数</th> <th>葉齢</th> <th>生育</th> <th>葉色</th> <th>茎数</th> <th>葉齢</th> <th>生育</th> <th>葉色</th> <th>茎数</th> <th>葉齢</th> <th>生育</th> <th>葉色</th> <th>茎数</th> <th>葉齢</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>	生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育	葉色	茎数	葉齢	生育	葉色	茎数	葉齢	生育	葉色	茎数	葉齢	生育	葉色	茎数	葉齢	同上
生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育診断値		生育診断値																																				
生育	葉色	茎数	葉齢	生育	葉色	茎数	葉齢	生育	葉色	茎数	葉齢	生育	葉色	茎数	葉齢																																			
...																																			
長野	<p>・豊科定点圃場 (雑苗5月15日植) では「あきたこまち」7月23日、「美山錦」7月25日に出穂期となった。 早生種の出穂期は「平年より5日早い。「コシヒカリ」は先週から出穂が始まり、平坦地では8月2日前後に出穂期を 迎えると思われる。(松本農業改良普及センター 7月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月4日～9月3日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 関東甲信地方では、8月7日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁東京管区気象台)</p>																																																
滋賀	<p>・還元障害による生育抑制から回復傾向にあり、出穂期は「みずかがみ」で過去5年平均より1日遅く、 「コシヒカリ」では1日早かった。県内ほ場の「みずかがみ」では、7月20日頃を中心に出穂期を迎えており、 5月上旬移植の「コシヒカリ」では、7月24日時点で出穂始～出穂期となっている。 (滋賀県農業技術振興センター 7月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月4日～9月3日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 近畿地方では、8月7日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁大阪管区気象台)</p>																																																

生育状況等		
兵庫	<p>(全県共通) 葉齢の進展は平年並み。草丈は平年並み。茎数は少ない。 (県南部) 草丈が平年より長く、茎数は平年に比べて極早生種の「キヌヒカリ」では少なく、早生～中生の「きむすめ」、 「ヒノヒカリ」では多い。 (生育) (県北部) 草丈は平年並で、茎数が多い。出穂は「コシヒカリ」で平年より早い。 (兵庫県 7月27日付)</p>	<p>同上</p>
岡山	<p>豪雨による冠水被害のあった水稲を除き、本年は、日照時間が多く平均気温も高かったため、水稲の生育は早生品種を中心に平年並～やや早めに進んでいる。 ・南部の中生・晩生品種で麦刈の遅れから移植が遅かったもの等を除いて、全般に茎数は平年並～やや多めとなっている。 ・早生品種のうち、移植が早いものは既に出穂が始まっており、移植の遅いものも幼穂形成期となっている。 ・中生品種は移植の早い中北部では分けつ盛期～分けつ後期、移植の遅い南部では分けつ前期～分けつ後期となっている。 ・晩生品種は分けつ前期～分けつ後期となっている。 (岡山県農林水産総合センターほか 7月20日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月4日～9月3日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 中国地方の向こう3か月の平均した気温は平年並が高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 中国地方では、8月7日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>・7月豪雨による水稲被害面積は845.45ha (岡山県 8月2日14時現在)</p>
広島		<p>同上</p>
愛媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月3日～9月4日】 四国地方の向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 四国地方の向こう3か月の気温は平年並が高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 四国地方では、8月7日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁高松地方気象台)</p>
高知	<p>(作柄) ・高知県、宮崎県及び鹿児島県の早期栽培の作柄は、一部で平成30年7月豪雨等の影響がみられるものの、田植期以降おおむね天候に恵まれたことから『平年並み』が見込まれる。(農林水産省 7月27日付)</p>	<p>同上</p>
福岡	<p>(生育) ・7月25日現在における水稲の生育は、草丈は平年並で、茎数は農産部の夢つくしと元気つくしを除き、平年より9～19%多かった。主稈葉数は平年より0.6～1.9葉多く、生育は進んでいる。(福岡県 7月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月4日～9月3日】 九州北部地方向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州北部地方の向こう3か月の気温は平年並が高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【高温に関する異常天候早期警戒情報】 九州北部地方では、8月7日頃からの1週間は、 気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる。 (気象庁福岡管区気象台)</p>
熊本		<p>同上</p>
宮崎	<p>(作柄) ・高知県、宮崎県及び鹿児島県の早期栽培の作柄は、一部で平成30年7月豪雨等の影響がみられるものの、田植期以降おおむね天候に恵まれたことから『平年並み』が見込まれる。(農林水産省 7月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月4日～9月3日】 九州南部地方の向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州南部地方の向こう3か月の気温は平年並が高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>
鹿児島	<p>(作柄) ・高知県、宮崎県及び鹿児島県の早期栽培の作柄は、一部で平成30年7月豪雨等の影響がみられるものの、田植期以降おおむね天候に恵まれたことから『平年並み』が見込まれる。(農林水産省 7月27日付)</p>	<p>同上</p>

注1：国及び地方自治体、出先機関、J A等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。

注2：更新箇所は赤字で示している。

注3：平成30年8月3日午前10時現在の情報の取り纏め。

参考・引用資料:

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月19日)、農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月19日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月19日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月19日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月19日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月19日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月19日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月19日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月19日)、農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道留萌振興局 7月19日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月19日)、
7月31日現在水稲出穂状況(青森県 8月1日付)、
平成30年度水稲生育定期調査結果No.6(7月25日現在)(岩手県農業研究センター 7月30日付)
平成30年度水稲の生育状況について(7月30日現在)(宮城県農林水産部 7月31日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」)http://www.e-komachi.jp/ 8月3日、7月27日)、
稲作だより緊急対策号(やまがた攻めの米づくり日本一運動最上地域本部 7月31日付)、
稲作だより緊急・高温対策(北村山総合支庁北村山農業技術普及課 8月1日付)、
おきたま米づくり情報緊急号(やまがた攻めの米づくり日本一運動置賜地域本部実践班 8月3日付)、
主要な農作物の生育情報 第4号(福島県農林水産部農業振興課 7月10日付)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月23日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 龍ヶ崎市 7月24日)、
平成30(2018)年度水稲生育診断予測事業速報No.5(栃木県農政部 7月27日)、
水稲の生育状況と当面の対策 第6報(千葉県農林水産部 7月27日付)、
水稲の生育状況と今後の管理対策(第8号)(新潟県農林水産部 7月31日)、
H30岩船米生育速報(7月30日現在)(村上農業普及指導センター)
コシヒカリ生育情報(魚沼農業普及指導センター 7月30日)、
平成30年度稲作生育速報No.8(佐渡農業普及指導センター 7月30日)、
TACS情報第8号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月17日)
平成30年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-9号)(石川県農林総合研究センター 7月27日調査)、
稲作情報No.10(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月6日)、
平成30年作物技術普及情報 第11号(松本農業改良普及センター 7月31日付)、
水稲の生育状況(長野県農業試験場 7月12日)、
平成30年度水稲生育診断情報No.4 滋賀県農業技術振興センター 7月27日付)、
平成30年度兵庫県農業気象技術情報第4号(8月情報)について(兵庫県農政環境部 7月27日付)、
水稲における当面の技術対策について(岡山県農林水産総合センターほか 7月20日付)、
福岡県米麦大豆改善速報(福岡県 7月26日付)

北海道地方こう1か月の天候の見通し(8月2日札幌管区气象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(8月2日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(8月2日気象庁)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(8月2日新潟地方气象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(8月2日大阪管区气象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(8月2日広島地方气象台)、
四国地方こう1か月の天候の見通し(8月2日高松地方气象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(8月2日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(8月2日鹿児島地方气象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(7月25日札幌管区气象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(7月25日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(7月25日気象庁)、
北陸地方こう3か月の天候の見通し(7月25日新潟地方气象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(7月25日大阪管区气象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(7月25日広島地方气象台)、
四国地方こう3か月の天候の見通し(7月25日高松地方气象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(7月25日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(7月25日鹿児島地方气象台)、

異常天候早期警戒情報(8月2日 14時30分 気象庁)

平成30年7月豪雨による被害について(8月2日14時00分現在)(岡山県 8月2日)

平成30年度水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月27日付)